

## 女性の力で地域をじわじわと元気に

藤岡 喜美子

2011年東日本大震災発生。「復興は私たちの手で」と立ち上がる女性の「潜在的力」を私は、感じた。震災発生わずか半年後、東北でビジネスプランコンテストを開催した。36名の応募があり4名を採択、うち女性が2名。2012年には、63名の復興のための起業家支援を行い、女性は6割、これまで起業を考えたこともない人が多かった。住まいも働く場も、そして家族をも失った女性、これまで利用者・消費者であった女性が悲しみ・憤りを片手の拳に握りしめ、もうひとつの手を未来に掲げ、自身で潜在的力を引き出し動いた。私はその傍らにいた。次から次へと覆いかぶさる困難を明るい笑顔で越えていった。

女性の起業の課題としては、一般的には①起業に必要とされるビジネスの経験・ノウハウを有する女性が少ない、②家庭と仕事の両立に悩んでいる女性が多く、「ビジネスのことだけ」を純粹に考えることが難しい場合が多い、③女性起業家のロールモデルが少ない、④女性の起業は趣味の延長で社会課題解決につながりにくい、と言われている。特に④の点については、私の考えは大いに異なる。多くの女性は、身近な「困った」を放ってはおけない。そこで起業にはビジョンが大切であることを伝える。「実現可能性のある夢」を描くことで、自分でも「できる」「やりたい」と前に進む自信と勇気が沸きあがる。暗中模索の起業準備も、わからないことは学び、知らないことは調べ、一つひとつ自分で乗り越え、経営者への道を歩む。だからこそメンターケアも含め、十分時間をかけて、じっくり伴走する「寄り添い支援」が必要だ。

利益をあげることだけを重視する見の狭い考えでなく、女性起業家は社会性と事業性のバランス感覚がある。私は「こんなサービス」「こんな商品」が「あったらいいな」を実現する支援をしていきたい。女性の潜在的力を引き出すことで地域に社会的価値と経済的価値の好循環を産み出し、地域経済は活性化すると確信する。



### PROFILE

ふじおかきみこ：公益社団法人日本サードセクター経営者協会（JACEVO）執行理事。東京海上火災保険（株）勤務を経て、専業主婦のあと30代で婦人会会長。NPOの立ち上げ、地区推薦の町議会議員。複数の自治体で政策アドバイザー。約1,000件の起業支援。内閣府「新しい公共」推進会議委員、中小企業庁NPOなど新たな事業・雇用の担い手に関する研究会委員等歴任。著書に『稼ぐNPO』（カナリアコミュニケーションズ、2016）。